

いにしへの栄華を今に語り継ぐ

福岡学区

FUKUOKA



平成27年度 福岡小学校5年生
野村 昇平さん

僕の将来の夢は、水泳選手です。オリンピックなどの大会で日本を代表して、世界のいろいろな選手と競って金メダルを取りたいです。ちがう国の人たちに、「水泳なら日本が強い」と認められるようにがんばりたいです。



将来、このまちで暮らす
みなさんへ



私は人を喜ばせることや、笑顔にさせることが好きです。美容師さんになってすてきな髪型にしてお客さんを喜ばせたり、ケーキ屋さんになってお客さんを笑顔にしたりしたいです。「ありがとう」と言われる、人のためになる職業に就きたいです。



平成27年度 福岡小学校5年生
小池 舞音さん

これから高齢化が進んでいくふるさとのため、積極的にボランティア活動をしていきます。



平成27年度 福岡中学校3年生
榎原 茉琳さん

福岡学区にあるたくさんの方の文化財を活かした町づくりを、僕たち若者が盛んにしていきたいです。



平成27年度 福岡中学校3年生
築山 隆司さん



土呂の里に立つ「土呂神輿会 童」
鈴木 良伸さん

お祭り大好き人間は神輿を通じて一所懸命。共に楽しみ、汗をかき夢中になろう！

大好きな福岡の町を鳴子踊りで昔のように元気になりたいと10年前に立ち上げました。学区の皆さん、私達と一緒に踊りませんか。いつもにこにこ元気いっぱい。蓮如まつりで笑顔の花を咲かせましょう。



鳴子踊り「土呂」
稲葉 和子さん



編集後記

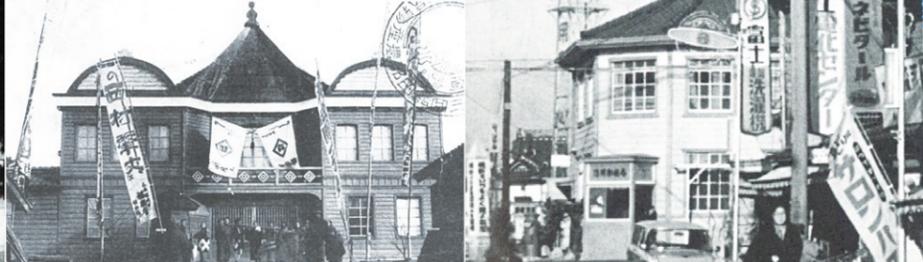
作成委員会に関わり、福岡学区の歴史を調べると、知らないことがいっぱい、驚くことばかりですが、皆さんに協力して頂き、何とかできました。皆さんが集めた資料を基に話が弾み、月1回の編集会議も楽しくできたことが良かったと思います。



〔作成委員会〕 平野肇 / 織田保夫 / 榎原克芳 / 浅井正人 / 鈴木良伸 / 稲葉和子 / 福岡学区文化財保存委員会

〔参考資料〕 新編福岡町史 / 写真集 福岡の歴史資料 / 福岡の歴史カルタ

〔表紙写真〕 昭和30年に作られた土呂音頭が50年ぶりに「よきこい土呂音頭」として復活し、蓮如まつりで初披露 (平成17年4月撮影)



1 八角形の洋風建築の福岡郵便局は、額田郡の中で岡崎、岩津に次いで3番目に誕生した

2 劇場福岡座の開設当時、近衛十四郎(松方弘樹の父)のような有名な俳優も来演した



3 建坪158坪(約522㎡)の福岡小学校講堂は、当時額田郡内で最も立派といわれた



4 昭和26年から約11年間、福岡町民の足として重宝された名鉄市内電車と福岡町駅



昭和30年代に商店街で開催されていた七夕まつり(→地図)



5 安心して老後を暮らせる社会を目指し建設されたなのはな苑

福岡学区

まちなりたち

- 一八七二年 ■ 明治 5
- 一八七六年 ■ 明治 9
- 一八七八年 ■ 明治 11
- 一八九三年 ■ 明治 26
- 一九一二年 ■ 明治 45
- 一九一二年 ■ 大正 1
- 一九一六年 ■ 大正 5
- 一九二三年 ■ 大正 12
- 一九二七年 ■ 昭和 2
- 一九三四年 ■ 昭和 9
- 一九三六年 ■ 昭和 11
- 一九三八年 ■ 昭和 13
- 一九四七年 ■ 昭和 22
- 一九五一年 ■ 昭和 26
- 一九五三年 ■ 昭和 28
- 一九五五年 ■ 昭和 30
- 一九六一年 ■ 昭和 36
- 一九六八年 ■ 昭和 43
- 一九七〇年 ■ 昭和 45
- 一九七一年 ■ 昭和 46
- 一九七九年 ■ 昭和 54
- 一九八二年 ■ 昭和 57
- 一九八四年 ■ 昭和 59
- 一九九五年 ■ 平成 7
- 一九九九年 ■ 平成 11
- 二〇〇一年 ■ 平成 13
- 二〇〇四年 ■ 平成 16
- 二〇〇五年 ■ 平成 17
- 二〇〇六年 ■ 平成 18
- 二〇一〇年 ■ 平成 22
- 二〇一四年 ■ 平成 26
- 二〇一五年 ■ 平成 27

土呂郷学校開校

学校ができて、とても嬉しかった!

額田郡福岡第六四番小学福岡学校開校

福岡郵便局開設: 1

額田郡福岡村が町制施行により福岡町になる

劇場福岡座開場: 2

市道福岡幸田線開通

岡崎市制施行(7月1日)

西八町通り「県道福岡赤坂線」(後の市場福岡線)開通

花街開業(玉川町・清水町)

福岡小学校講堂完成: 3

西八町説教場移転

本宗寺内に福岡保育園開園(現在は移転)

福岡中学校開校。福岡町警察署創設

第一期水道拡張事業が始まる

戦時中に休止された旧西尾線のうち、福岡町ー岡崎駅前間の名鉄市内電車が復活: 4

福岡南保育園開園。福岡土地改良事業着手

福岡町が岡崎市と合併。土呂音頭が生まれる

福岡土地改良事業完了

県営福岡南部土地改良事業着手

頭宗寺再建

県営福岡南部土地改良事業完了

見徳寺境内の薬師堂再建(→地図F)

岡崎福岡土地地区画整理事業が事業認可

岡崎福岡土地地区画整理事業が事業完了

土呂八幡宮社務所完成(→地図D)

福岡中学校移転

特別養護老人ホーム「なのはな苑」開設: 5

「土呂太鼓」創設

鳴子踊り「土呂」創設

「よさこい、土呂音頭」蓮如まつりで初披露

土呂神輿会「童」創設

福岡学区市民ホーム移転

衣浦岡崎線全線開通

玉川橋改修工事完了

DATA

人口	10,275人
男性	5,164人
女性	5,111人
世帯数	3,975世帯
面積	3.61km ²
[2016年7月1日現在]	

地名の由来

「土呂」の名の由来

土呂御坊(本宗寺)が建立されていた当時、住職は蓮如上人の孫にあたる実円でした(1510年以降)。その頃、土呂御坊を囲むように1200余軒の民家が立ち並んでおり、この地方の都的存在であったことから「都の路」「都路」と呼ばれていたそうです。

その頃の土呂は、大変繁盛していて、村の出入り口が十一ヶ所もあったそうです。そのため、「土呂」を「都路」と呼んだといわれています。

新編「土呂山皇今昔実録」より

「福岡」という村名の由来

- 一、京ヶ峰の山麓より岡(丘)伸びて村の中央に至っている。西南は碧海・幡豆両郡の沃野に接している。
- 二、古来毎月六斎の市(月6回開催される定期市)が開かれており、甚だ盛んにして百福輻輳するをもって、「福岡」と名す。

四か村の「合村願」が出された頃の記録より

福岡学区の自慢

- 一、地域の絆が深い。とくに、学校と地域住民との絆が深い。
 - 二、蓮如にまつわる話をはじめ、昔話や民話が数多く残されている。
 - 三、郷土の偉人、文化人や開発事業に関わった人の碑石、碑文、遺跡が数多く残っている。
 - 四、昔ながらの町名、字名が今も残っている。
 - 五、古くからの神社や寺院、文化財が数多くある。
- 国指定重要文化財「土呂八幡宮本殿」
県指定文化財「木造阿弥陀如来坐像」
市指定天然記念物・ふるさとの名木「土呂陣屋の松」(福岡小の校庭内)

昭和58年当時、福岡小6年生だった伊藤葉子さん(享年17)が書いた詩「老人ホーム」の記念碑(寂静寺)。「老人ホームをつくりたい」という想いは「なのはな苑」で成就した



砂川に蛍がいっぱいたな



田んぼが広がったなあ!そして、真四角だあ!



三味線の音が聴こえる。風情があるなあ!



水道が引けたので、「もらい風呂」をしなくてもよくなった



土呂御坊絵図(想像図)藪田正己画

かつて土呂御坊(本宗寺)の南に大池があり、一説には「とろ」は「瀬」(水が深く流れる)の緩やかな所に由来するとも言われています。

福岡学区

土呂の文化財をめぐる

土呂の地に応仁2年(1468)、蓮如上人が本宗寺(「土呂御坊」と呼ばれる)を創設し、巡化の拠点としました。土呂御坊の本殿は東西二町(約220m)、南北一町(約110m)もあり、寺の回りに11の山門を持つ全国的に最高の坊舎であったといわれています。永禄7年(1564)の三河一向一揆で、本宗寺は兵火にあい、寺の領地は退転衰亡と化しました。本宗寺の旧地に「土呂殿本宗寺」が再興されたのは、明治に入ってからのことでした。

現在、福岡学区は幹線道路の開通や宅地化が進み、まちの姿が大きく変わろうとしています。歴史を感じられる文化財が至るところに残っています。



A 本宗寺(土呂御坊)
蓮如上人により巡化の拠点とされた通称「土呂御坊」。現在の本堂は大正12年に再建された。



B 浄専寺
寺伝では、元応2年(1320)または観応2年(1351)に天台寺院として創建。蓮如に巡り会い、真宗に転じたのは裕信のときであると記されている。
三河一向一揆のおり焼失を逃れた浄専寺には、「焼け残り六字の名号」「蓮如上人御自画御影」「蓮如上人三河絵伝」「形見の御遺詠」など多数の文化財がある。



C 土呂陣屋の松
江戸時代の旗本・山口内匠の陣屋屋敷に植えられていたもの。明治になってこの地に小学校が開設されたが、現在の北門一帯に残された。樹齢は300年以上で、高さ14mにもなる。
福岡町の歴史を見守り続けているが、台風や松食虫の被害で現在は5本となってしまった。



●常夜燈
土呂のまちには各町で管理されている常夜燈が10基あります。探してみよう!



D 土呂八幡宮
椀皮ぶきの屋根の本殿は国の重要文化財に指定されている。三河一向一揆で古記録がすべて消失してしまい、創立年は不明だが、平安末期に京都から来た神官によって建てられたといわれる。棟札には元和5年(1619)の造営とあるが、それよりも古い様式を残している。



E 高須神明宮
応永9年(1402)、越崇寺の山門守護神として建立された。天正年間(1573~92)、矢作川の氾濫に悩まされていた人々が、矢作川の沖積層の小高い洲であったこの土地に移り住み、村落を形成して村名を高須と名づけ、神明宮を鎮守産土神とした。祭神は天照皇大神。



F 見徳寺
明治39年に新町にある地藏尊の前で、当時の西尾街道を走る定期便の馬車に幼い女の子がひかれる事故が発生した。不思議なことに女の子はかすり傷ひとつ負わなかった。お地藏さんが身代りになったお陰であると、事故以来誰となく地藏尊を「身代り地藏」と呼んで、供養するようになった。(福岡の歴史カルタより)



身代り地藏

時代を超えて 受け継がれる 土呂のまつり

れんにょ

和を実感！土呂蓮如まつり

DATA

日時／4月25日の前の土・日曜日
9時～18時
場所／土呂本通り（↓地図参照）



武者のぼりであつらえた法被で踊る「土呂」のメンバー

土呂の蓮如まつり（通称「蓮如さん」）では、大正から昭和30年代半ばまで、芝居、見せ物、サーカスなどが浄専寺境内や説教場などで催されていました。屋台や植木の出店も多く、どの家も近郊の親類を招き、蓮如忌の3日間、土呂のまちは押すな押すなのにぎわいでした。

昭和30年頃には商工発展会の企画でNHKの「のど自慢大会」や「CBC素人のど自



CBC素人のど自慢（昭和29年）



昭和33年の蓮如さんののにぎわい（昭和33年）

「のど自慢」や「素人のど自慢」なども催され、多くの人が楽しみました。なお、福岡町が岡崎市に合併される際、土呂の名所や特徴を唄に込めた「土呂音頭」が作られました。しばらく土呂音頭は忘れられていましたが、平成17年によさこいパレードにアレンジされた「よさこい土呂音頭」が作られ、鳴子踊り「土呂」により、同年の蓮如さんで初披露されました。（↓表紙写真）



現在の交通安全パレード

土呂音頭（昭和30年6月作成）

- 一、ハアー わしやがー福岡はヨー
昔やしずかな 瀬の入江よ
今は新興のサツサイデンヤレ
大岡崎市福岡町
- 二、ハアー 蓮如さん 舟でヨー
舟でお渡り 尊い教え
こわい大蛇も サツサイデンヤレ
安楽さいど 石の上
- 三、ハアー 月の三八はヨー
ゆかりも古い さかな市よ
人で埋って サツサイデンヤレ
縁まで結ぶ 土呂の市
- 四、ハアー 上地願成寺はヨー
天下御免の彦左が寺よ
雲にそびゆる サツサイデンヤレ
日本一の 日蓮像
- 五、ハアー 思案橋 橋はヨー
行こか 戻るか 渡れば都路
いとしあの 妓も
サツサイデンヤレ
笑顔でまねく 艶桜

作詞 小林 稔
作詞補 杉浦敬太郎
作曲 永見 貞三

生に歓喜！ふれあい夏まつり

DATA

日時／7月の最終土曜日
16時～20時
場所／福岡小学校



福岡小学校校庭には盆踊りの櫓やステージが組まれる。御神輿の練り込みで雰囲気は最高潮に

昭和30年代、商店街で七夕まつりの竹飾りコンクール、町民街頭盆踊り大会が2日間にわたって開催されました。盆踊りは、初日は高須願宗寺から西八町福岡センターまで、2日目は市場町綿駒商店より福岡町駅（現バス停）まで踊り通しました（↓地図）。竹飾りで飾られた商店街は行き来できないほどのにぎわいでした。

現在では7月の最終土曜日に「ふれあい夏まつり」として、福岡小学校の校庭で盆踊り、御神輿、ステージでの余興などが行われ、学区民が2500名ほど集まり大いに盛り上がります。



昭和40年に結成されたザ・サンダースの演奏は、学区イベントの恒例行事

心が躍動！土呂八幡宮秋の大祭

DATA

日時／10月16日に近い
土・日曜日
場所／土呂八幡宮



花火の練り込み（昭和30年頃）



奉納舞



秋の大祭 宮入り

土呂八幡宮秋の大祭と言えば、花火の練り込み、神子舞、御神輿のお練り込みといった神事と並行して催される余興も大きな楽しみでした。昭和30年代は、芝居小屋でドサまわりの人情芝居を見ながら家族や友人と押し寿司を食べることが何よりの娯楽だったのです。

土呂八幡宮本社神輿（明治20年4月に奉納）は壊れてい

たため、しばらく使用されていませんでしたが、土呂神輿会「童」の手により修繕されました。平成18年10月15日の秋の大祭にて復活し、今では多くの担ぎ手に伝統が受け継がれています。